

特集

同志社大学 「EUキャンパスプログラム」 始動!



同志社大学の教育理念の一つである「国際主義」の伸展と深化を図り、同志社創立 150 周年に向けて世界を牽引する教育・研究体制を構築するために、2017 年度に本学初の海外キャンパス「同志社大学チュービンゲン EU キャンパス (以下、EU キャンパス)」をドイツ・チュービンゲン大学内に開設。同志社大学とドイツやヨーロッパ諸国をつなぐ新拠点を目指して両大学の学生・教員による学術交流などを積極的に推進しています。全学共通教養教育科目で構成する「EU キャンパスプログラム」での学生派遣もその一つです。



特集座談会

片山 真由さん

グローバル地域文化学部2年次生
チュービンゲン大学「International
& European Studies」参加学生

安原 彰子さん

心理学部2年次生
「EU キャンパスプログラム」
参加予定学生

レオン・
ヴィゲンハウザーさん
チュービンゲン大学
同志社日本研究センター留学生

種市 麻理

国際課職員・
EU キャンパス駐在員

和田 喜彦

経済学部教授・
EU キャンパス支援室長

新島襄の理想を具現化する 本学初の海外キャンパス

—「EU キャンパス」開設の目的を聞かせてください。

和田 新島襄は世界に目を向け、そこから学ぶことの大切さを痛感し、国際的に評価される日本人を育成したいと考えました。その教育理念の実質化を目指し、2017年度に本学初の海外キャンパスとしてドイツのチュービンゲン大学内に開設したのが「同志社大学チュービンゲンEU キャンパス」です。新島襄が欧州の教育機関の視察後、筆頭にあげたのもドイツでした。1477年に創立されたチュービンゲン大学はその長い歴史の中で数多くの著名人を世に送り出し、ノーベル賞受賞者も8人輩出しています。建学の理念に「革新性」、「学際性」、「国際性」を掲げるチュービンゲン大学との学術交流をさらに推進し、同志社大学とヨーロッパ諸国を結ぶ新拠点にしたいと考えています。

種市 同志社大学は1990年にチュービンゲン大学と学術交流協定を締結し、1993年には「チュービンゲン大学同志



社日本研究センター」が今出川校地内に設立されました。以来、四半世紀以上にわたってチュービンゲン大学の学生が本センターに留学しています。このような実績に基づく信頼関係の構築が「同志社大学チュービンゲンEU キャンパス」開設につながったと思っています。私は駐在員として今回の「EU キャンパスプログラム」に参加する学生たちを現地でサポートする予定です。私自身も大学時代にチェコに1年間交換留学し、貴重な経験を得ることができました。プログラ

ムの参加学生が爽り多き日々を送られることを心から願っています。

一どのような意図で今回の留学プログラムに参加されることを決めたのですか。

安原 1年次生の時にドイツ語を選択し、次第に興味が高まり、大好きになりました。そこで2年次生でも続けてドイツ語を学ぶことにしたのですが、クラスの誰もが非常に流暢なので驚きました。クラスメイトには、ドイツ人とのハーフで7歳までドイツに住んでいた学生、高校時代に既にドイツ語を勉強していた学生、母語でドイツ語を学んでいた中国人留学生、アメリカでドイツ語を学習していた帰国子女の学生がいたので、その差は歴然でした。短期間で同じレベルに達し、さらに超えるためには、留学しないと判断し、「EU キャンパスプログラム」に参加しました。もちろん、論文などをドイツ語で読めれば、心理学の研究に役立ち、カウンセリングの幅も広がるという思いもありました。

片山 学部を選ぶ段階では本格的に英語が学べるのが前提でした。将来、どのような分野に進むとしても、英語ができれば絶対に役立つと考えていたからで



す。しかし、グローバル地域文化学部は地域の歴史、文化、課題などをグローバルな視点から考察するのが目的であり、言語の運用能力は手段なのです。私はヨーロッパコースに属していますのでチュービンゲン大学で実施される「International & European Studies」プログラムがモニター学生を募集しているのを知り、「これは絶対に貴重な経験になる！」と考えて応募しました。まだ、将来の進路は具体的には決めていませんが、国際交流の架け橋になれるような仕事に就ければと考えています。

ヴィゲンハウザー 私は本学にあるチュービンゲン大学同志社日本研究センターで学んでいます。日本語だけでなく日本の歴史や文化などに関するゼミもあり、凄く勉強になっています。センターの行事で裏千家の茶道など、色々な体験もできました。個人では見学が難しい場所でもグループなら許可が得られるケースが多いのでグループ留学もメリットが多いと思います。日本の歴史や文化に関心を抱いたのは少年の頃です。映画で観たサムライの世界に魅了されたのがきっかけでした。中・高校時代にはドイツで武道にも取り組みました。チュービンゲン大学に進学したのも、この留学プログラムがあったからです。4月からは京都の伝統文化を体感できる京町家スタイルのホテルでインターンシップをする予定です。卒業論文は明治維新を牽引した島津氏（薩摩藩）をテーマにしたいと考えています。卒業後のことは未定ですが、外交官の仕事に魅力を感じています。

この機会に真の国際人への新たな一歩を踏み出して欲しい

—今回実施の2つのプログラムの趣旨を教えてください。

和田 「EUキャンパスプログラム」の目的はドイツ語運用能力を高め、ドイツを含むヨーロッパの文化や社会、異なる価値観への理解を深めることによって真の国際人への新たな一歩を踏み出してもらうことです。勉学に打ち込みながら様々な交流も積極的に体験して欲しいと思います。歴史を誇る学術都市チュービンゲンの街を散策し、週末にはフランスなどの隣国などにも足を延ばして見聞を広め、数多くの出会いを体験していただきたい。それが、将来への貴重な糧になるからです。「International & European Studies」プログラムは、チュービンゲン大学が提供する英語によるプログラムですが、今後のEUキャンパスにおける教育活動の新たな展開を検討するために、モニター学生を募りました。本学だけのプログラムではなく、世界各国から学生が参加しています。モニターとして体験された片山さんの感想を聞かせてください。

片山 チュービンゲン、ベルリン、フランクフルト、シュトゥットガルトなど各地を巡りました。プログラムの期間は1月2日から26日まででしたが、何倍にも感じる非常に充実した内容でした。誰もが直ぐに打ち解け、会話も弾み、本当に楽しかったです。共通言語は英語です。関心を抱いているEUのシステムについても、しっかりと学びました。このプログラムに参加する前に派遣留学でオスロ大学にも行っています。北欧とドイツの



福祉を比較研究したかったからです。卒業論文に向けた資料も豊富に得ることができました。

安原 私は4月中旬に出発する予定ですが、日増しに期待が高まっています。心理学は奥が深く、しかも幅広い学問であり、経験が非常に役立つと考えています。ドイツに行くことによって新たな発見が得られ、日本と比較もできる。具体的な研究テーマは、まだ確定していませんが、自身の学びの引き出しを経験や資料で一杯にしたい。いま、フランスでも最高峰のパティシエとして名高い日本人のお店でアルバイトしているので、この機会にパリにあるショップも訪問したいと思っています。多くの方々との交流も深めたいですね。

ヴィゲンハウザー チュービンゲンは長い歴史と文化が映える美しい街です。街並みも、朝夕の景色も、素晴らしい。他の大学のようにキャンパスが区切られておらず、街全体が学びの地といった感じ。人々も和やかで優しい。散策されれば、心に残る出会いがあると思います。





素晴らしい環境の中で 学びを深め、数多くの出会いを

—「EU キャンパスプログラム」の要点
を聞かせてください。

和田 「セメスタープログラム・ドイツ語 I、II」は語学研修プログラムです。各自が事前に調べたドイツの社会や文化についてグループセッションを行います。「Intercultural Studies」はチュービンゲン大学の学生との共修科目であり、コミュニケーションを深めながら異なる価値観や文化などを互いに理解するのが目的です。「EU キャンパス特別講義」では、2019 年度は本学の建学の精神「良心教育」をテーマに取り上げます。本学で実施している「良心学」の講義の延長線上で、新島襄の崇高な精神をドイツ

という文脈の中で発展させていきたいと思っています。また、ドイツの高い倫理観も学んで欲しい。これらを交響させ、結実させながら、より良い世界の在り方を探究していきたいのです。

—ドイツの視点からグローバル社会をどのように捉えておられますか。

ヴィゲンハウザー ドイツは EU 加盟国であり、ヨーロッパの中心地に位置しており、長きにわたって数多くの移民を受け入れてきました。外国籍の人口も多い。私自身の実感としても、初対面の人はドイツ人なのかどうか見た目では分かりません。典型的なグローバル社会ですね。私は EU の考え方を積極的に支持しています。もちろん各国が歴史の中で培ってきたアイデンティティや独自の文化は堅持すべきですが、地球という俯瞰的な視点に立ち、世界の人々が国境を超



えて結ばれることを願っています。

—これからプログラムに参加される学生へのメッセージをお願いします。

種市 今回が初回となる「EU キャンパスプログラム」には、10 人の学生が参加してくれました。座談会の中で「言語の運用能力は手段」という指摘がありましたが、私もそのように捉えています。語学力は不可欠ですが、あくまでも大切なツールです。各国や各地の歴史、文化、社会への理解を深め、次代の世界に貢献できるのが真の国際人だと考えています。チュービンゲンという素晴らしい環境の中で積極的に学び、多彩な出会いを求め、貴重な気づきを得ていただきたい。そして、その成果を後輩の方々に受け継いでいただければと願っています。私も駐在員としてできる限りのサポートをしたいと思っています。

和田 私も留学を経験していますが、留学は言葉の壁にぶつかることもあり、新しい環境に慣れるまでに時間もかかる。でも、若い時は何でも乗り越えられる。その経験が必ず大きな自信になります。現地での多彩な出会いは生涯の財産です。帰国後はチュービンゲン大学同志社日本研究センターの留学生とも交流を深めて欲しい。留学中に得た知識や人的ネットワークを多くの学生に還元してください。素晴らしい成果を期待しています。

機能を集結したアジア研究と交流の新拠点を構築 新学舎に本学の EU キャンパス (4 部屋) が誕生

チュービンゲン大学では専門図書館を併設したアジア研究・交流の拠点を構築するために、旧眼科病棟の建物の中に同研究所の機能を集結する計画を策定。増改築工事は 2022~2023 年に完成予定です。本学の EU キャンパスは新校舎 1 階に 4 つの部屋を提供していただく予定です。



チュービンゲンの街並み



新学舎 (予定)



チュービンゲン大学

EU キャンパス URL / <https://www.doshisha.ac.jp/international/organization/eu/campus.html>
国際センター Facebook / <https://www.facebook.com/DoshishaU.IC/>

教員交換協定締結に係る調印式



Photo: University of Tübingen / Verena Müller

昨年 10 月下旬に松岡敬学長がチュービンゲン大学を訪問し、Bernd Engler 学長をはじめとする大学関係者と懇談。その後、2019 年度からの教員交換派遣の協定を締結しました。本協定に基づき、2019 年 8 月よりビジネス研究科 飯塚まり教授が、2019 年 11 月には法学部・法学研究科 瀬領真悟教授がそれぞれチュービンゲン大学へ派遣される予定です。

チュービンゲン大学における国際シンポジウム 『高齢化社会への挑戦:日本、ドイツ、ヨーロッパの 比較的な視点からの学際的アプローチ』を共同開催



2019 年 2 月 27 日、28 日にチュービンゲン大学にて、『高齢化社会への挑戦:日本、ドイツ、ヨーロッパの比較的な視点からの学際的アプローチ』(Challenging for Aging Societies : Interdisciplinary Approaches in Comparative Japanese, German and European Perspectives) が開催されました。2018 年 2 月 23 日に同志社大学で開催した同志社大学チュービンゲン EU キャンパス開設記念シンポジウムに続き行った今回は、「高齢化社会」をテーマに、医学、脳科学、臨床心理学、細胞学、社会科学、社会福祉学、公衆衛生学、歴史学など幅広い観点で、チュービンゲン大学の研究者 9 人と同志社大学の研究者 4 人による研究発表がなされました。

また、シンポジウム終了後に、EU キャンパスの運営協力に関する覚書が両大学学長名で調印されました。今後、チュービンゲン大学と同志社大学が、EU キャンパスを軸に、研究交流をはじめ様々な分野でのさらなる連携・協力を深めていくことが期待されます。

